

8 経年比較にみる高校生の勉強と生活意識

本調査の一部の内容は、財団法人日本青少年研究所が2009年実施した「高校生の勉強に関する調査」とほぼ同一としている。この章では、当該調査との経年的な変化をみる。

(4か国の高校生を対象とした調査は、平成25年度から国立青少年教育振興機構が継承している。)

1) 勉強時間

日本の高校生は7年前と比べて勉強時間が多くなっている。学校の宿題や学校の授業と宿題以外に「2時間以上」勉強すると回答した者の割合が高くなり、反対に「しない」と回答した割合が1割以上低くなっている(図8-1～図8-4)。

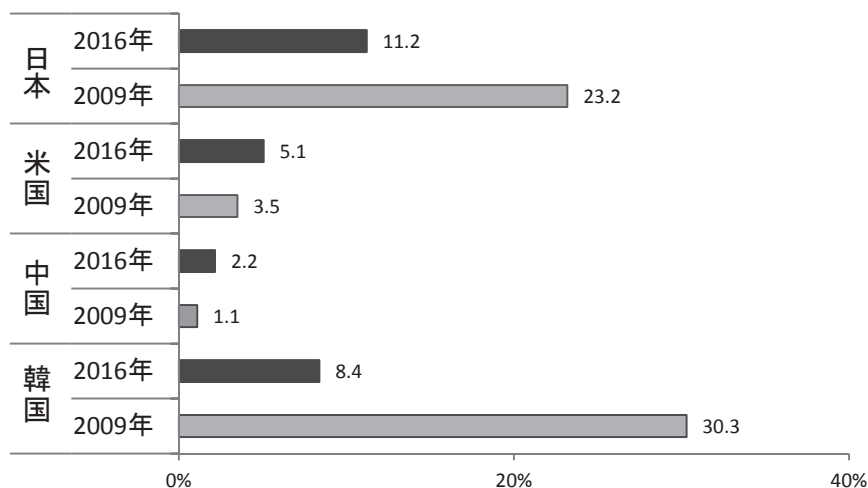


図8-1 平日に、学校の宿題を「しない」と回答した者の割合

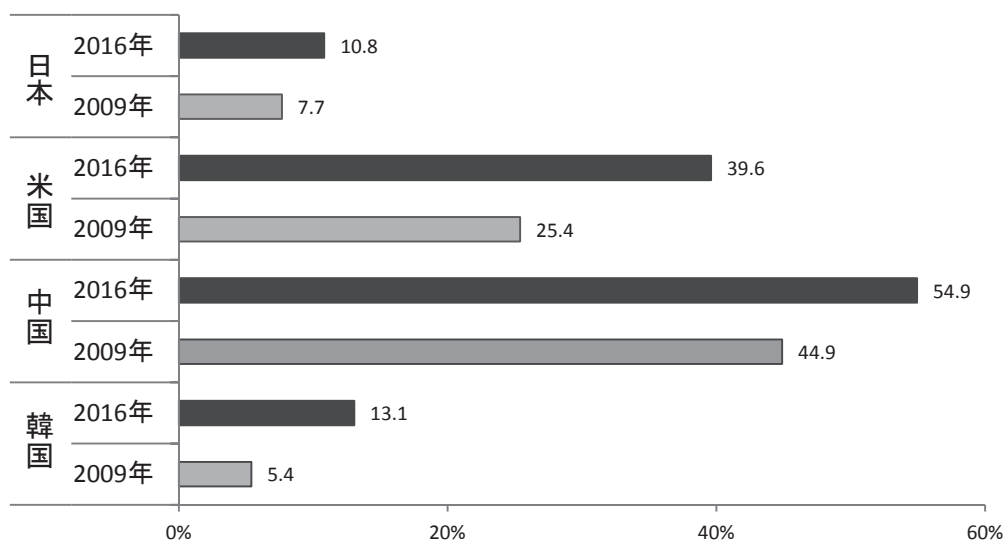


図8-2 平日、学校の宿題をする時間は「2時間以上」と回答した者の割合

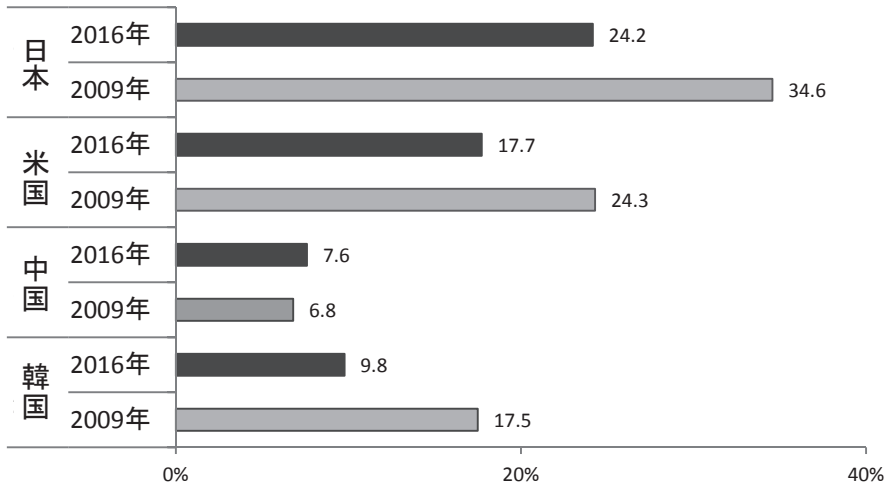


図 8-3 平日、学校の授業と宿題以外に、「勉強しない」と回答した者の割合

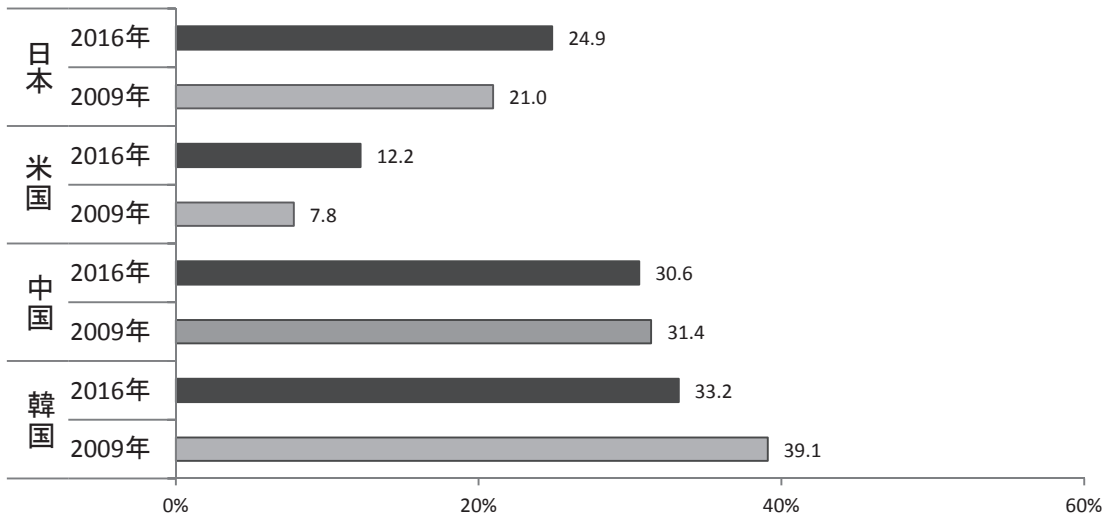


図 8-4 平日、学校の授業と宿題以外に、「2時間以上勉強する」と回答した者の割合

2) 勉強の仕方

日本の高校生は、「試験の前にまとめて勉強する」「問題集でたくさん練習する」「問題意識を持ち、聞いたり調べたりする」の割合が高くなっている（図8-5）。

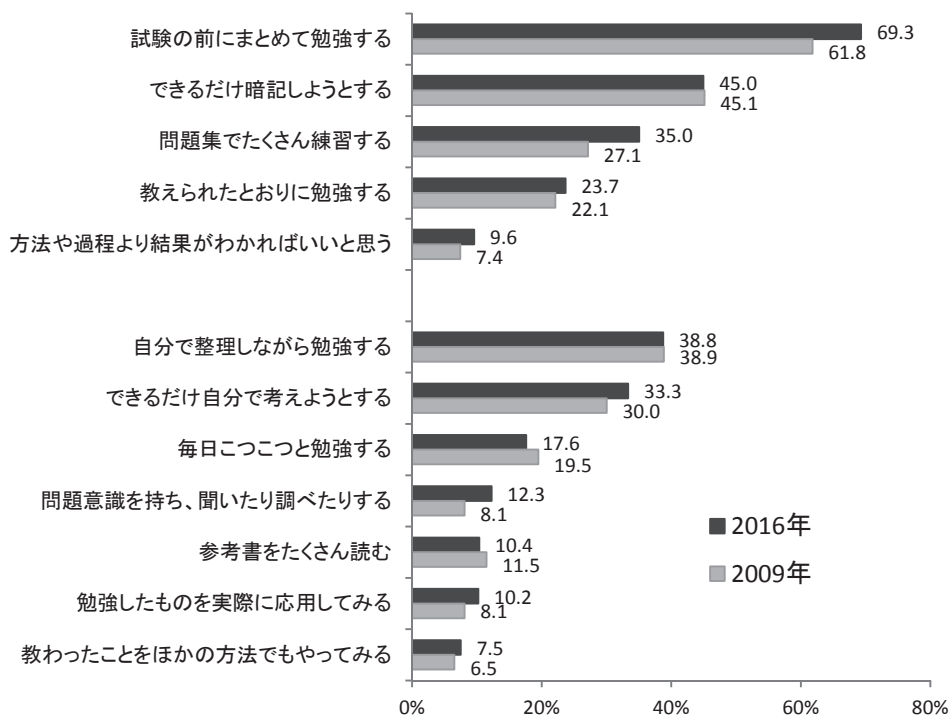


図8-5 勉強の仕方(日本)

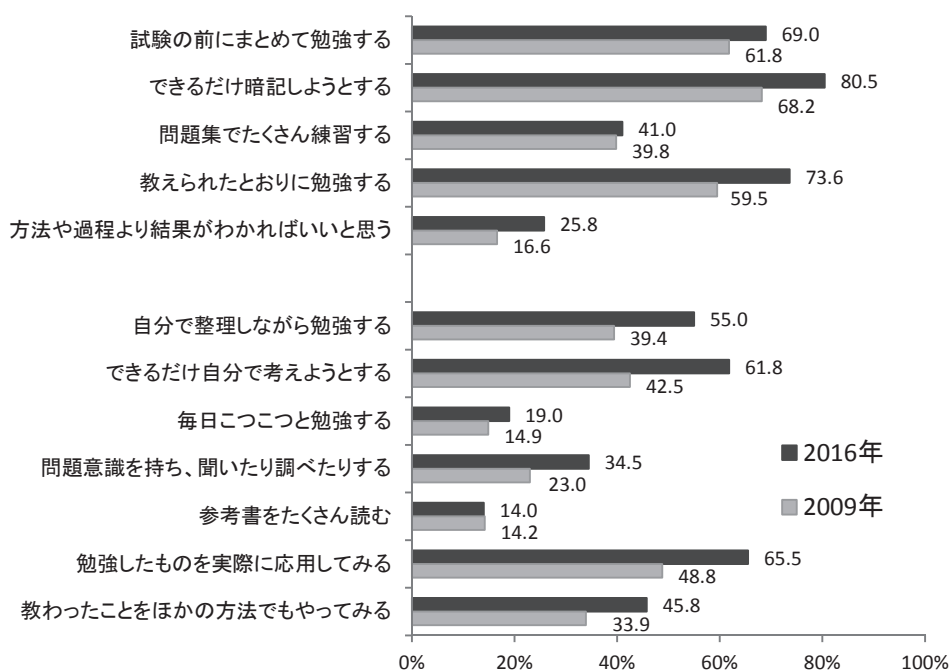


図8-6 勉強の仕方(米国)

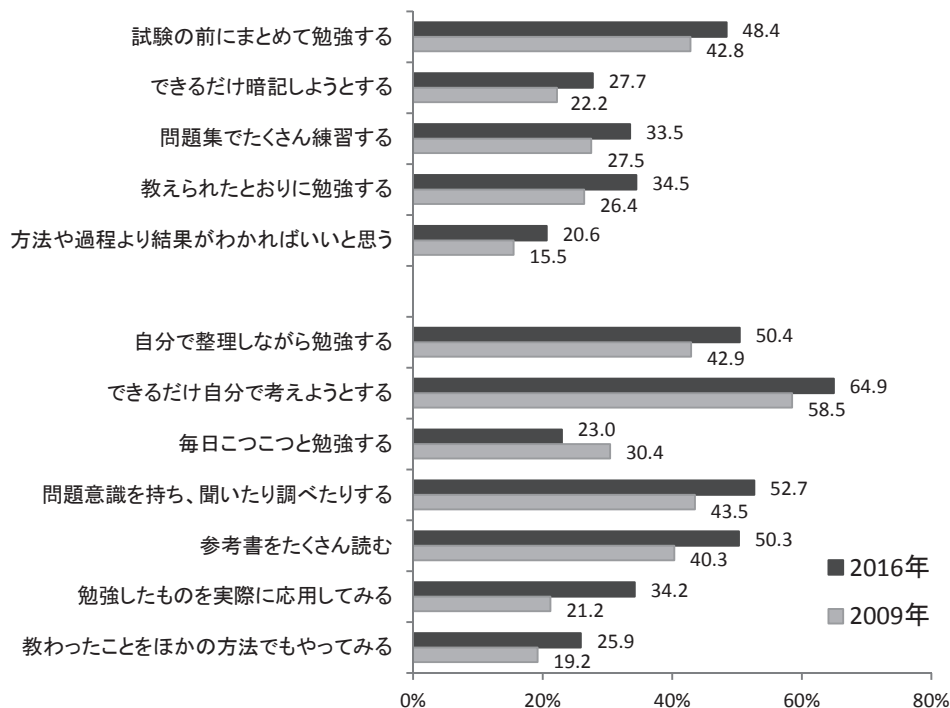


図 8-7 勉強の仕方(中国)

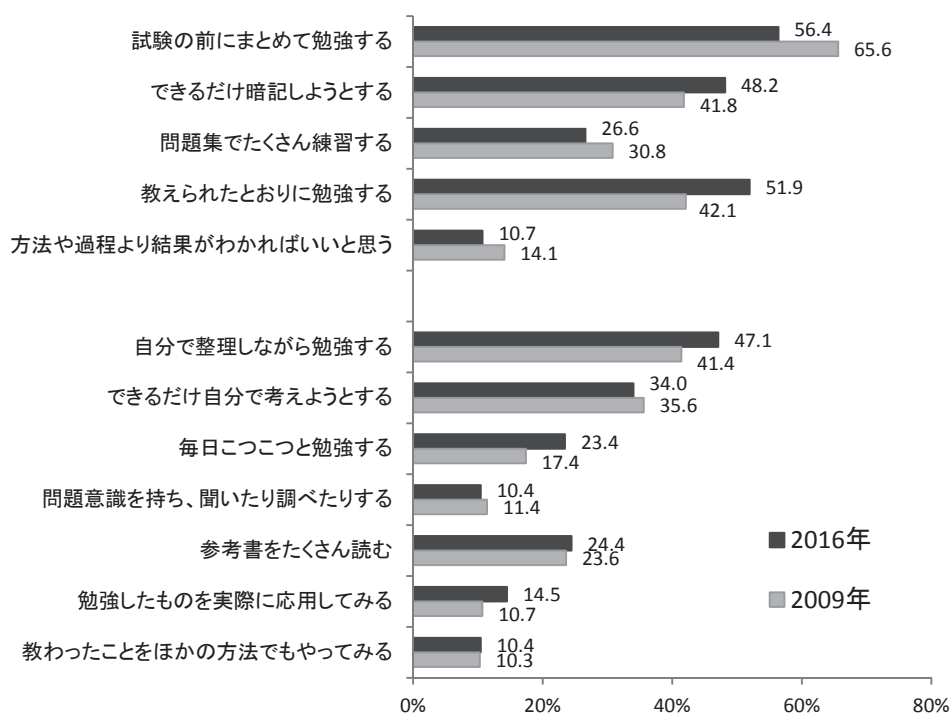


図 8-8 勉強の仕方(韓国)

3) インターネットでの勉強

4か国とも「インターネットで学習の情報を調べたりする」の割合（「よくする」＋「時々する」）が高くなっている。日米中3か国は「インターネットでニュース関連の情報をみる」も多くなっている（図8-9～図8-10）。

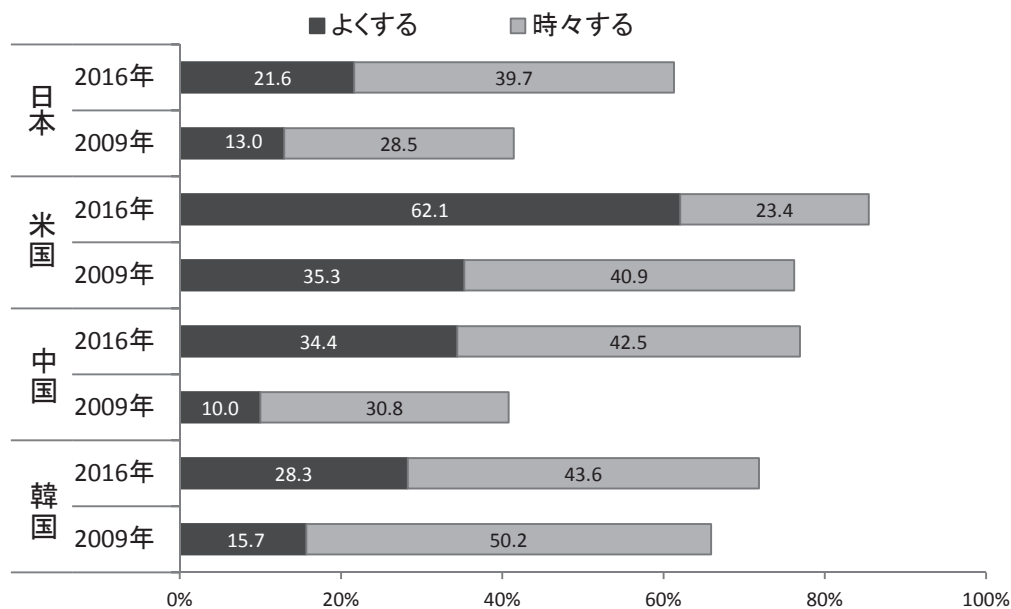


図8-9 インターネットで学習の情報を調べたりする

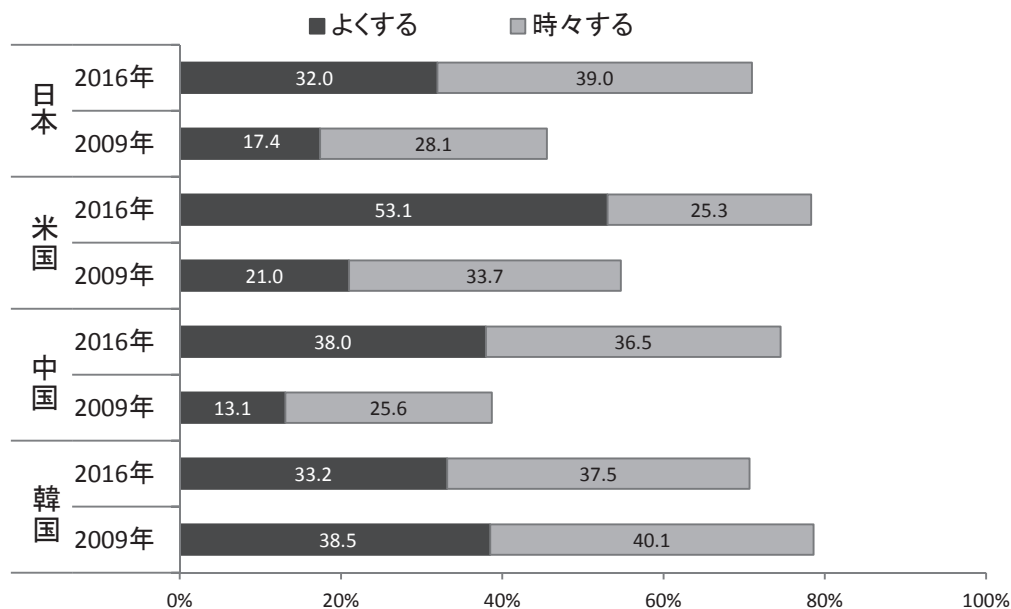


図8-10 インターネットでニュース関連の情報をみる

4) 勉強のプレッシャー

「勉強のプレッシャーを感じる」と回答した者の割合は、日本が6年前とほぼ同じである。米国が高くなっている一方で、中国と韓国が低くなっている（図8-11）。

プレッシャーの原因について、日本が減少しているのは「就職状況」「親の期待」「先生の期待」「家庭の状況」で、増加しているのは「勉強の内容が理解できない」であるが、いずれも大きな変化ではなかった。米国では、「親の期待」「先生の期待」「自分の願望」が増え、中国では「勉強の内容が理解できない」が増えている。韓国では「就職状況」「親の期待」が増え、「家庭の状況」「勉強の内容が理解できない」が減少している（図8-12～図8-15）。

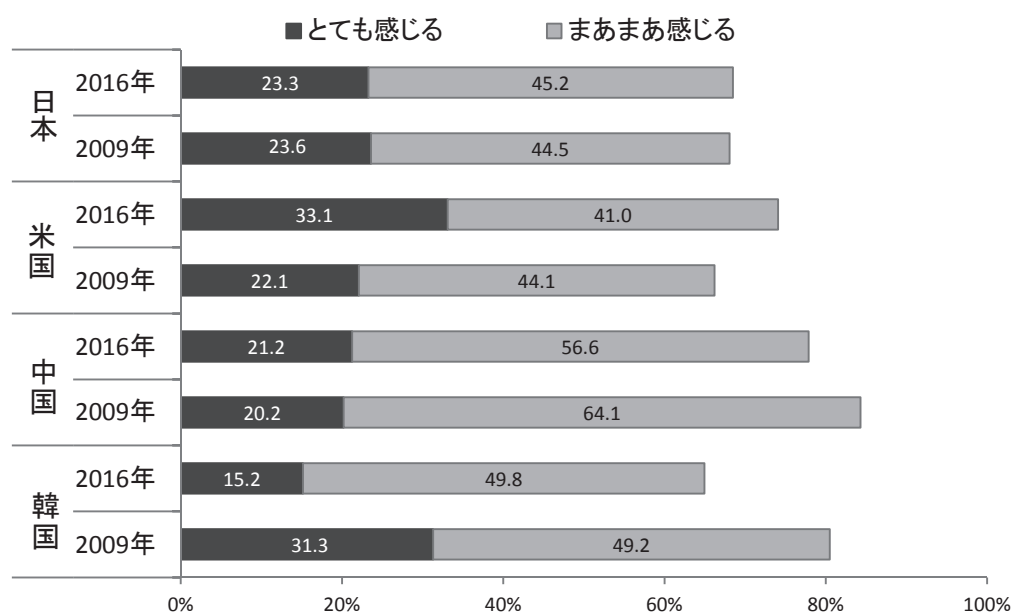
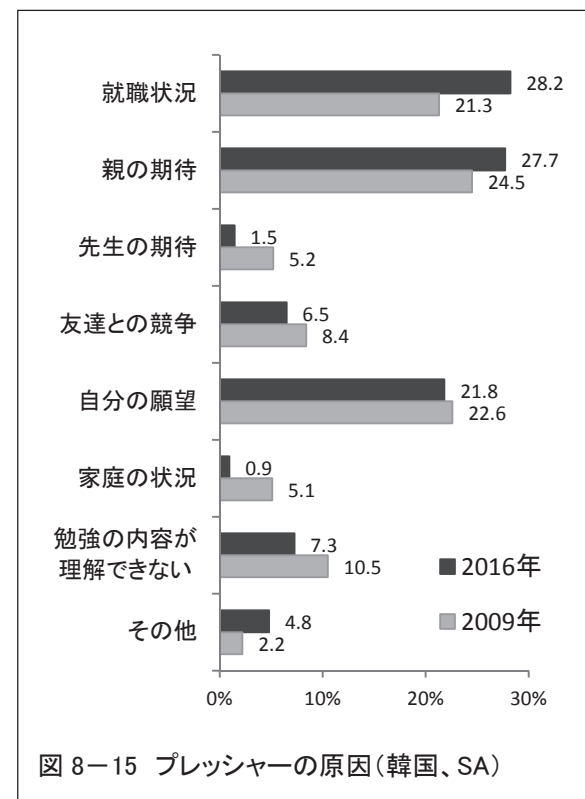
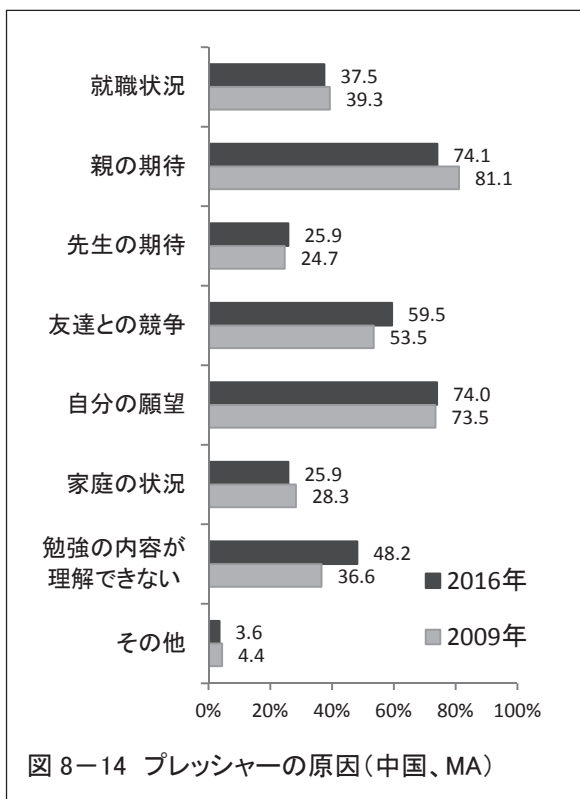
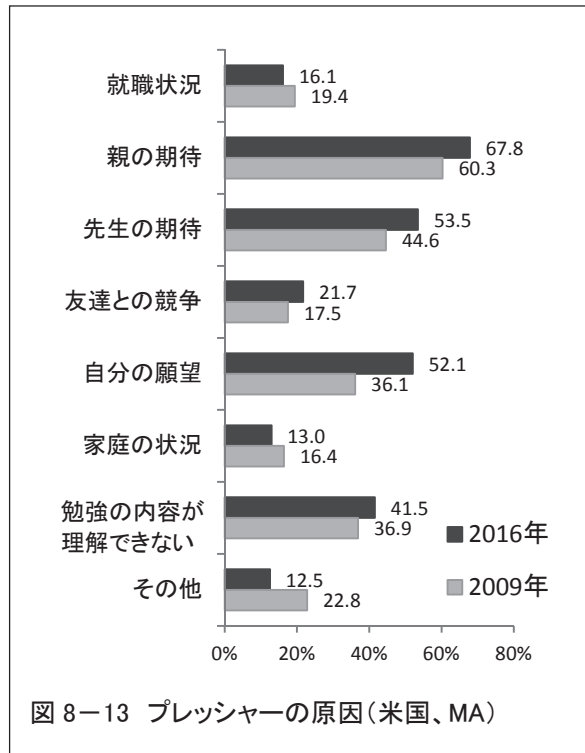
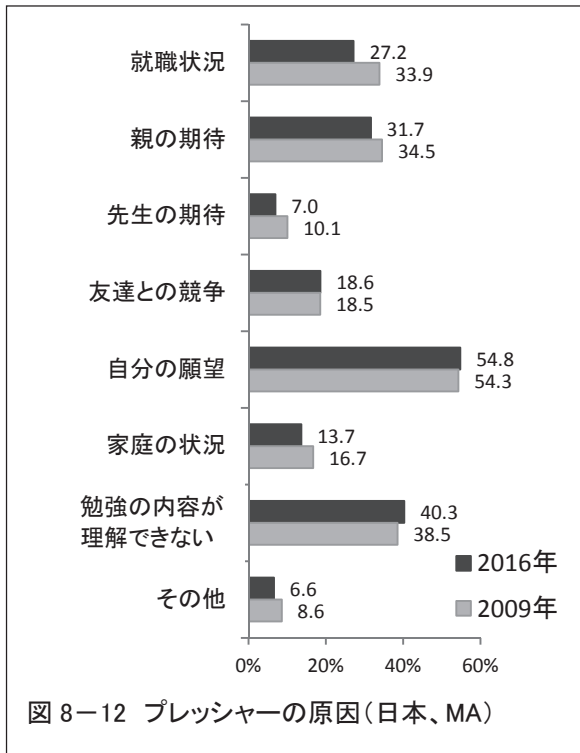


図8-11 勉強についてプレッシャーを感じているか



5) 成績について

日本の高校生は、「今よりよい成績をとるためにがんばりたい」と回答した割合が6年前より1割高くなっている（図8-17）。

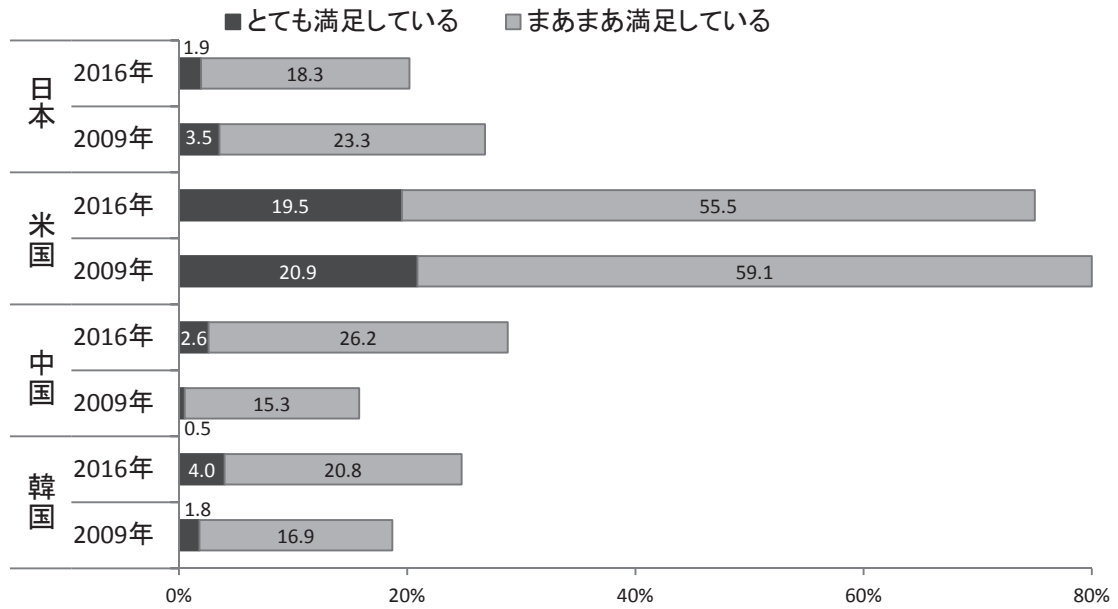


図8-16 成績への満足度

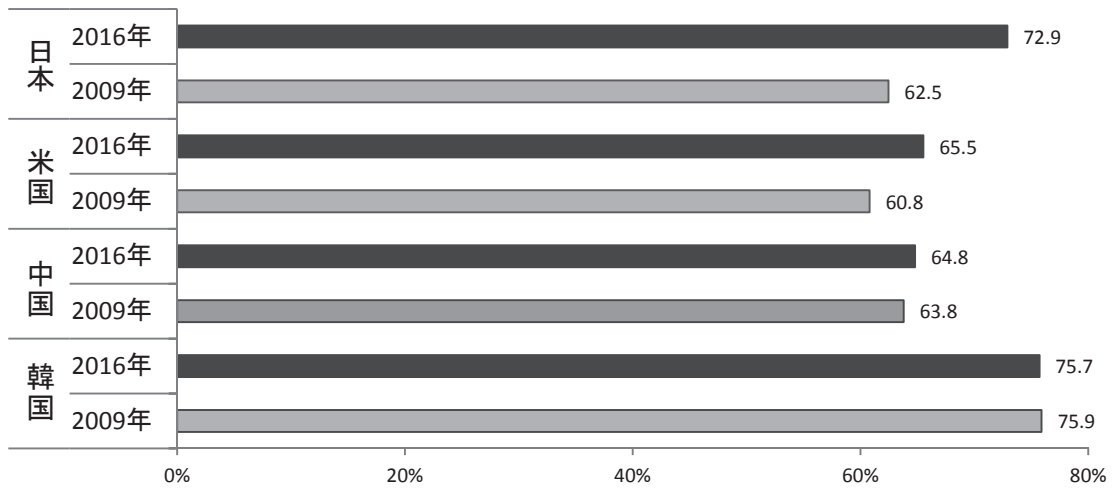


図8-17 今よりよい成績を取るためにがんばりたい

6) 授業の進み方

4か国の高校生とも「教科書の内容をきちんと教え、覚えさせる授業」が減少し、「グループで課題を決め、考えたり調べたりする授業」が多くなったと感じている。日本では、「生徒によく発言させる授業」「問題集でたくさん練習する授業」が増えている。「個人で考えたり、調べたりする授業」「いろんな教材や教具を使う授業」は、あまり変わらなかった（図8-18～図8-23）。

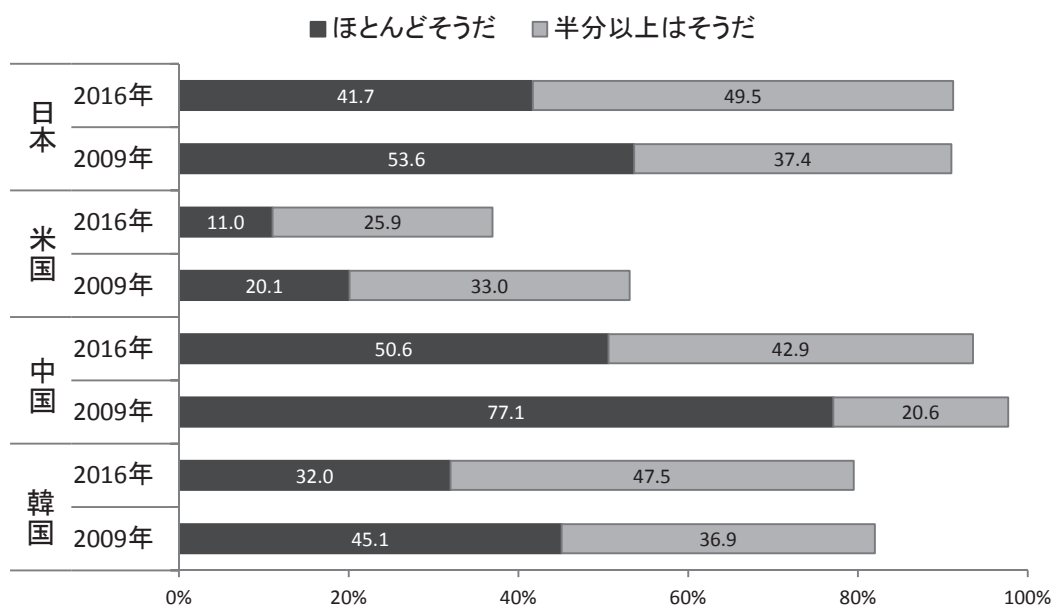


図8-18 教科書の内容をきちんと教え、覚えさせる授業

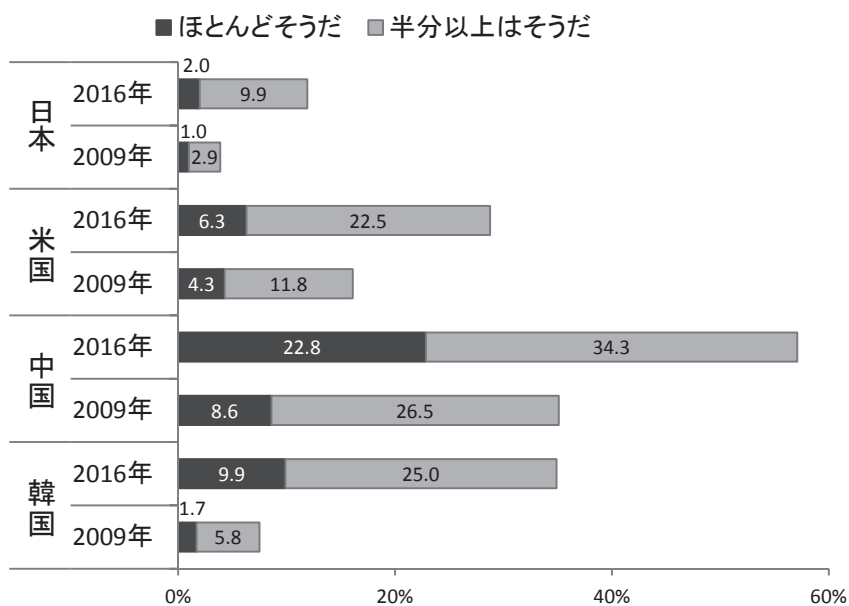


図8-19 グループで課題を決め、考えたり調べたりする授業

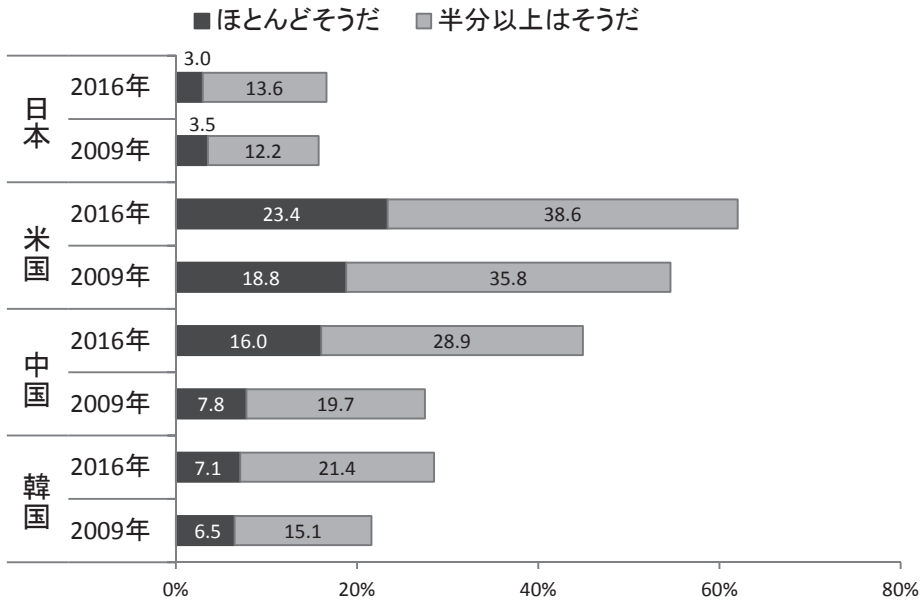


図 8-20 個人で何かを考えたり、調べたりする授業

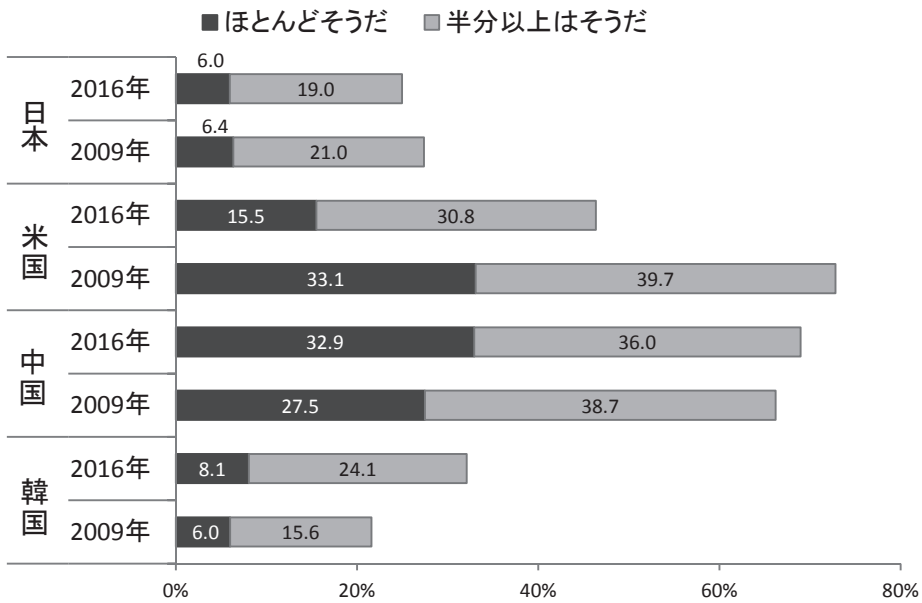


図 8-21 いろんな教材や教具を使って分かりやすく教える授業

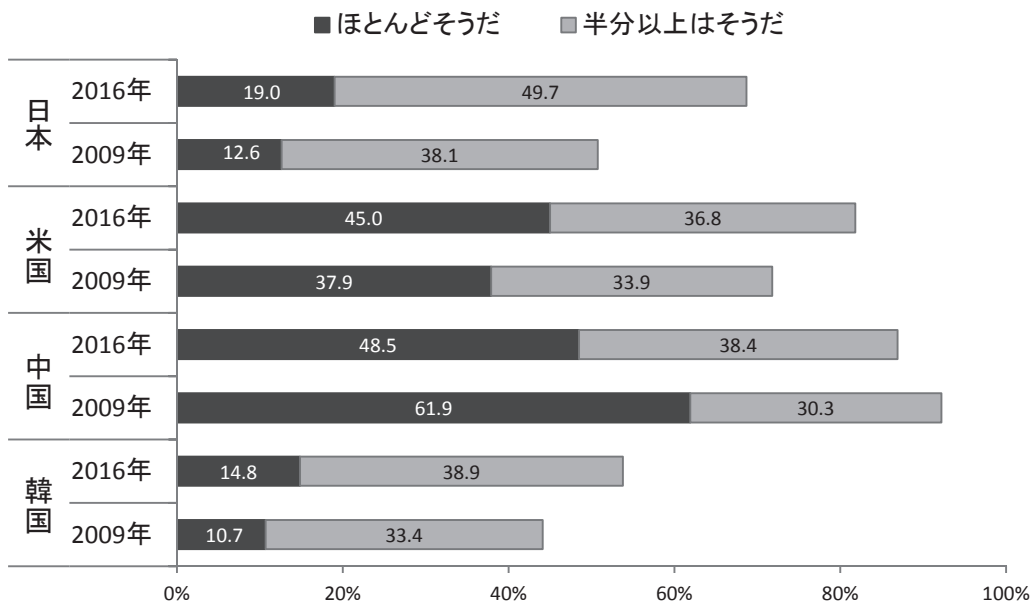


図 8-22 生徒によく発言させる授業

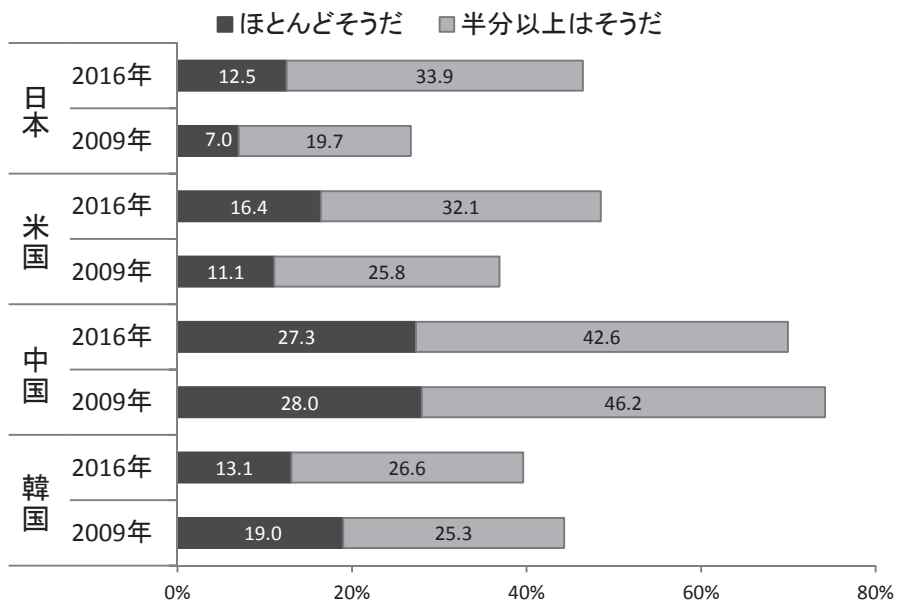


図 8-23 問題集でたくさん練習する授業

7) 授業中の態度や行動

日本の高校生は、「授業中、積極的に発言する」「出された宿題をきちんとする」「予習、復習をする」の割合（「よくある」「ときどきある」と回答した者の割合）が増えている一方、「授業中、居眠りをする」「授業中、ボーッとしている」も増えている（図8-24～図8-29）。

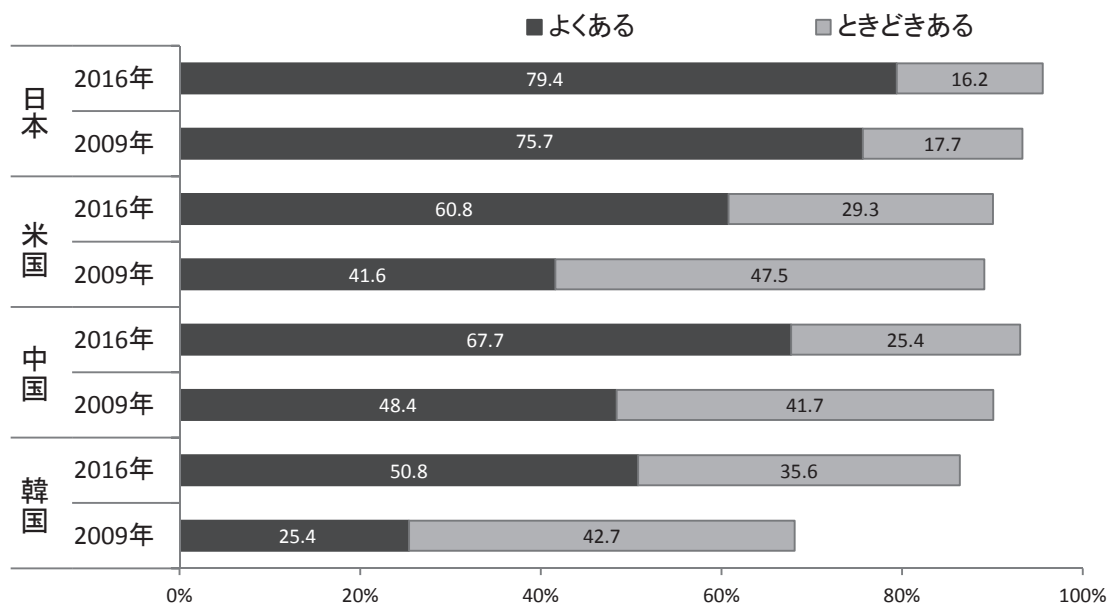


図8-24 授業中、きちんとノートをとる

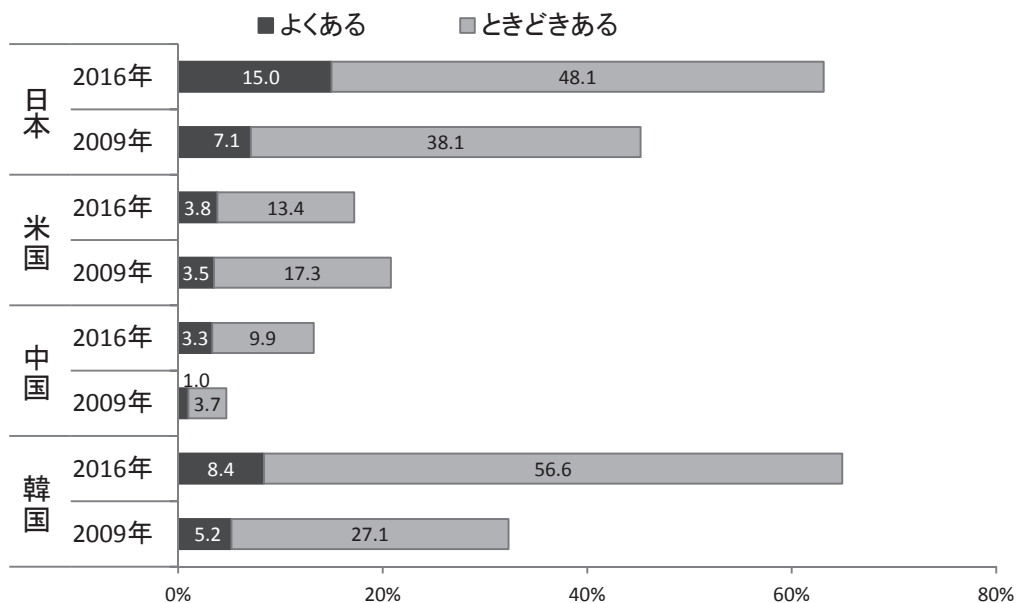


図8-25 授業中、居眠りをする

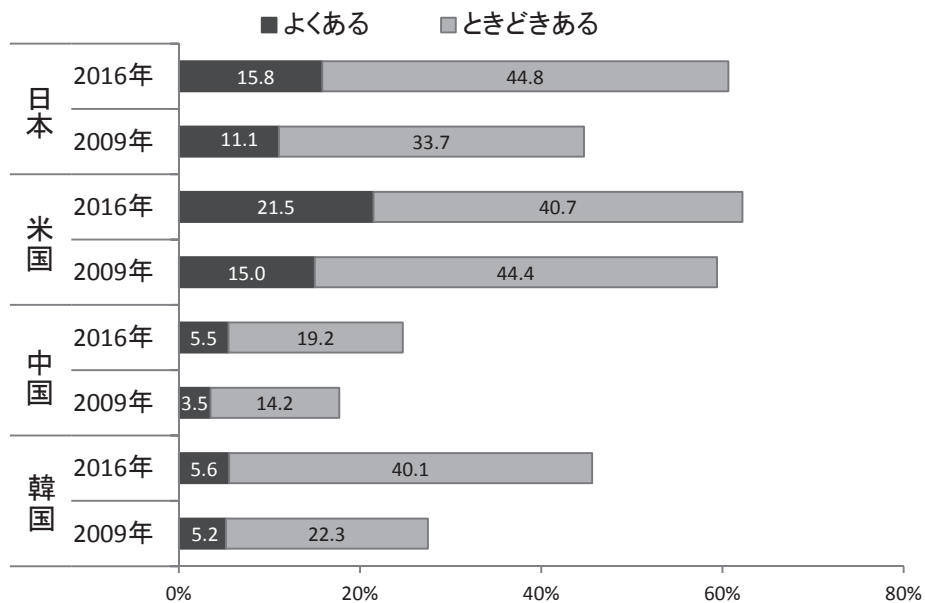


図 8-26 授業中、ポーズとしている

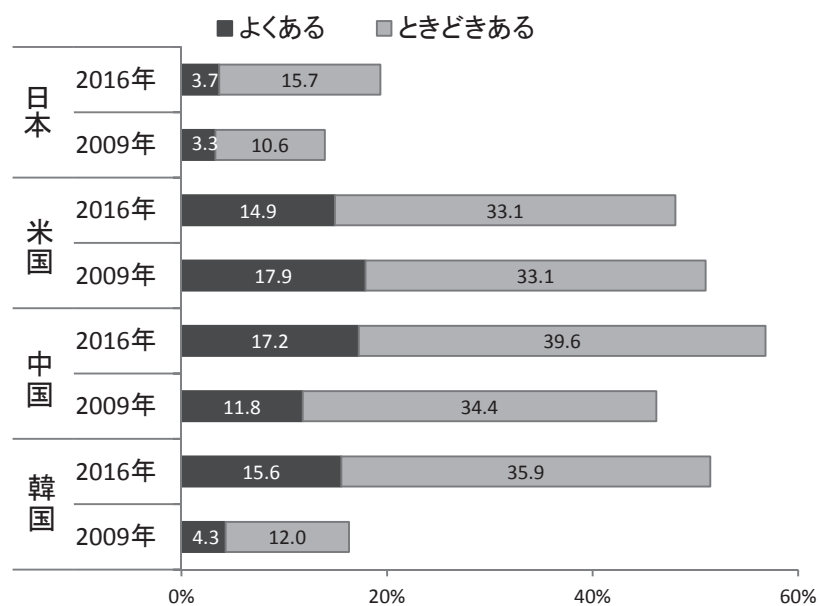


図 8-27 授業中、積極的に発言する

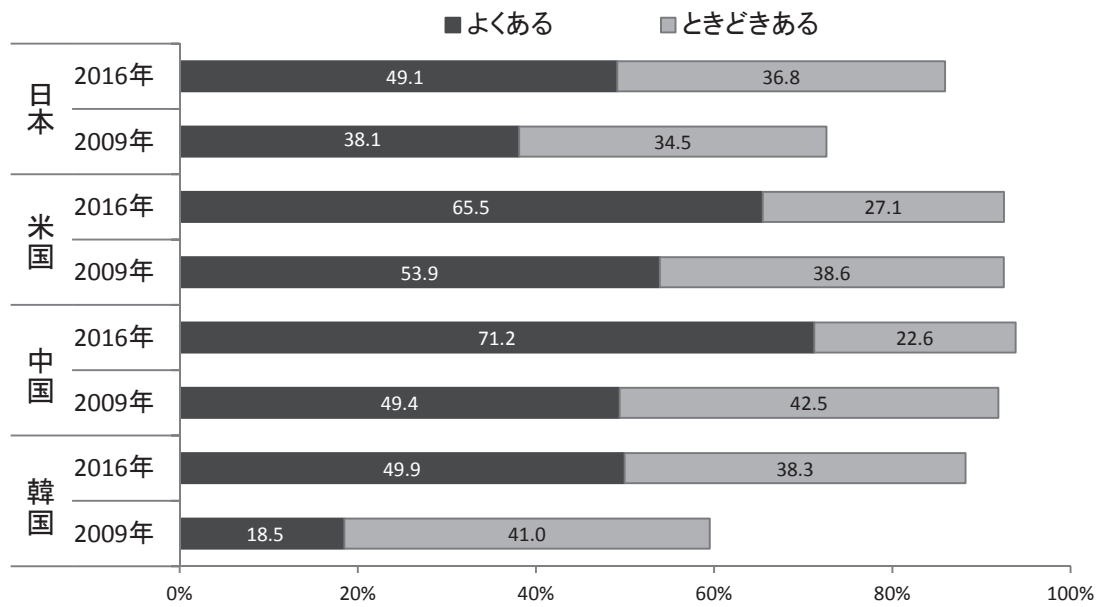


図 8-28 出された宿題をきちんとする

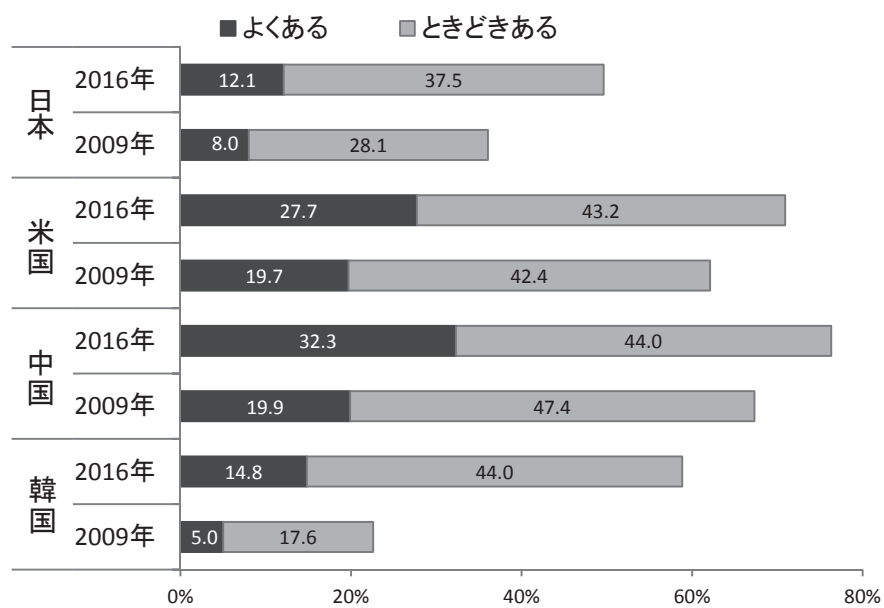
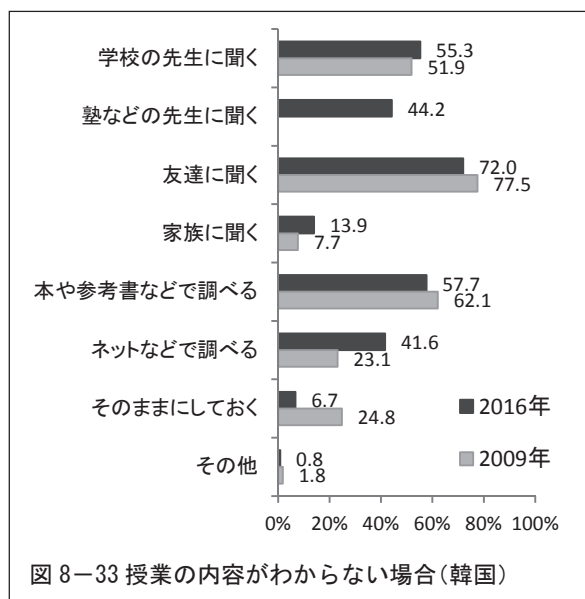
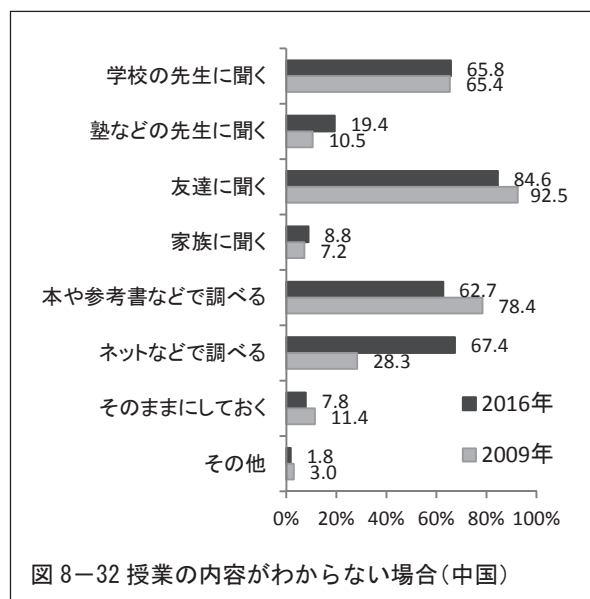
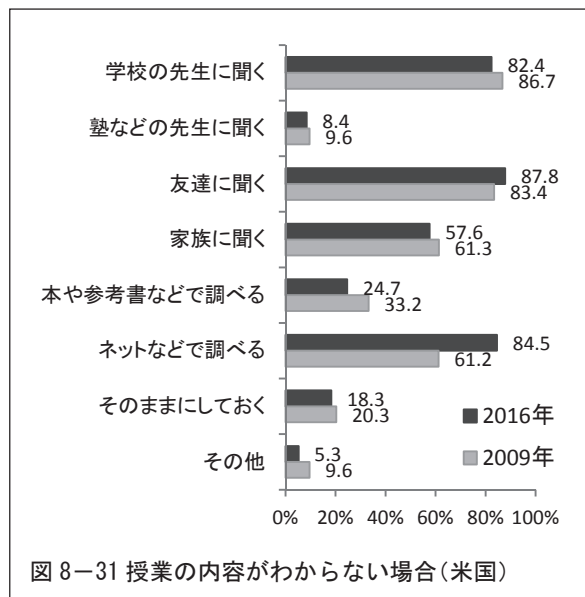
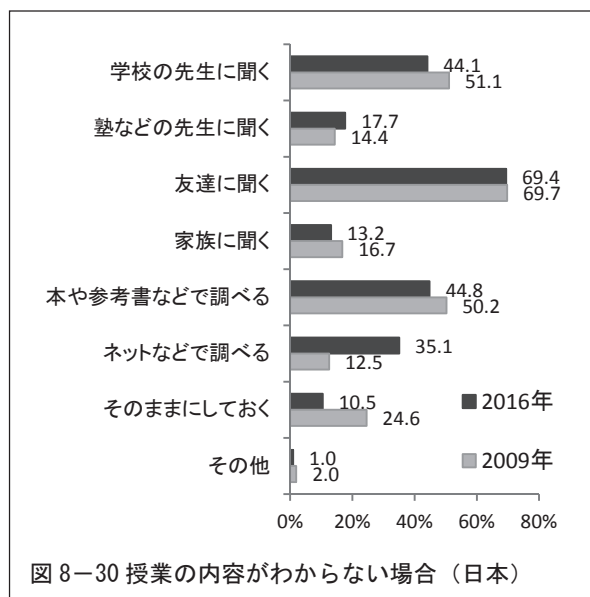


図 8-29 予習、復習をする

8) 授業の内容がわからない場合の対処法

日本の高校生は、「ネットなどで調べる」が大きく増加し、「そのままにしておく」「学校の先生に聞く」「本や参考書などで調べる」が減少している（図8-30）。



9) 学校生活で大事なこと

日本の高校生は、「先生の指導に従ってしっかり勉強すること」「目指す大学の受験科目を中心に学習すること」「クラスのリーダーになること」を重視するようになっている（図8-34～図8-38）。

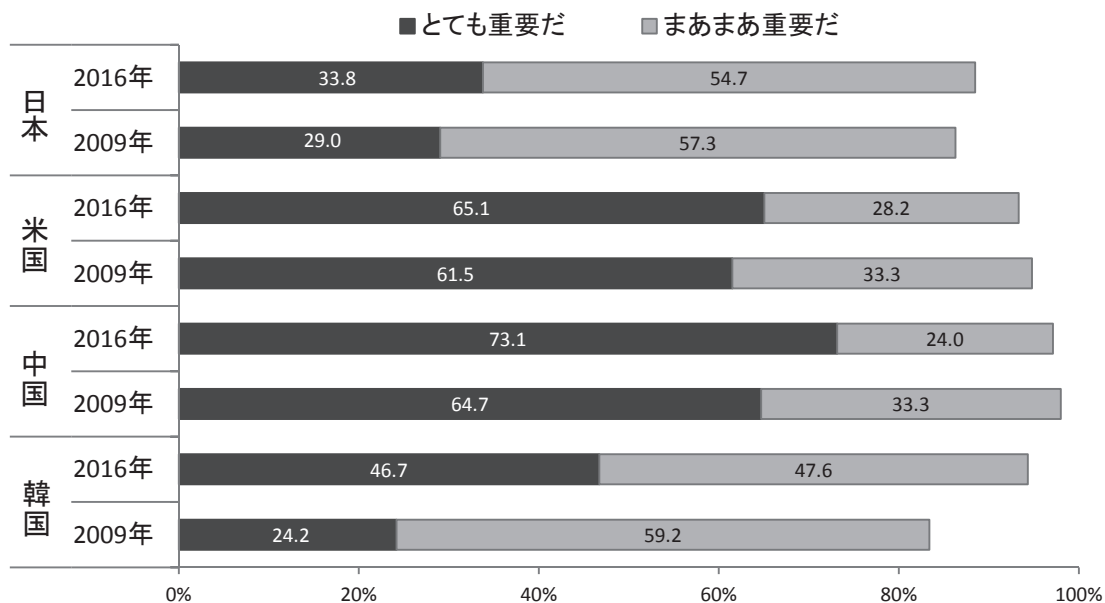


図8-34 先生の指導に従ってしっかり勉強すること

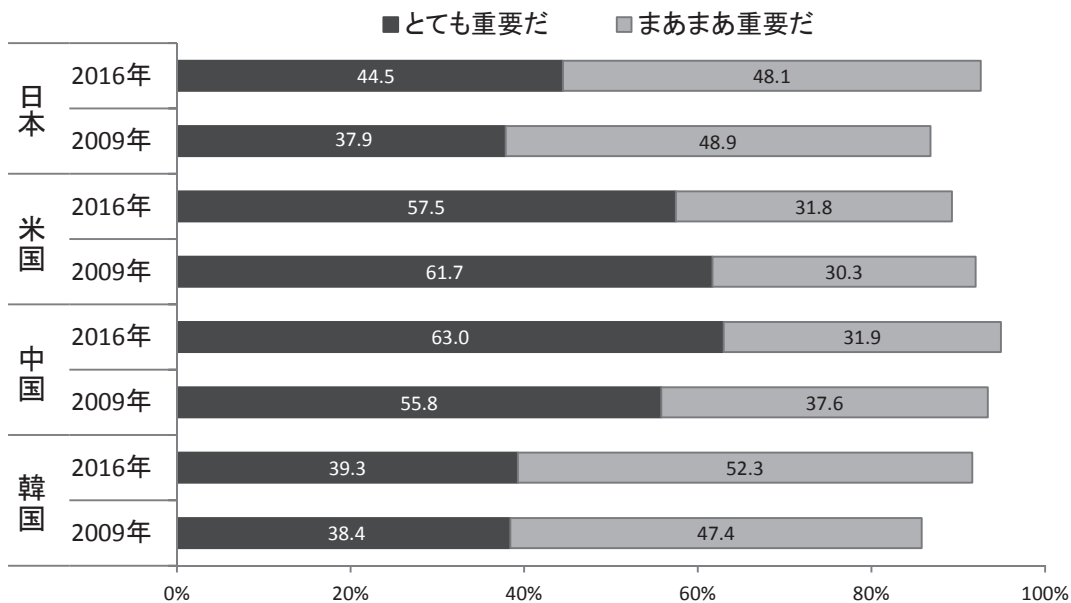


図8-35 目指す大学の受験科目を中心に学習すること

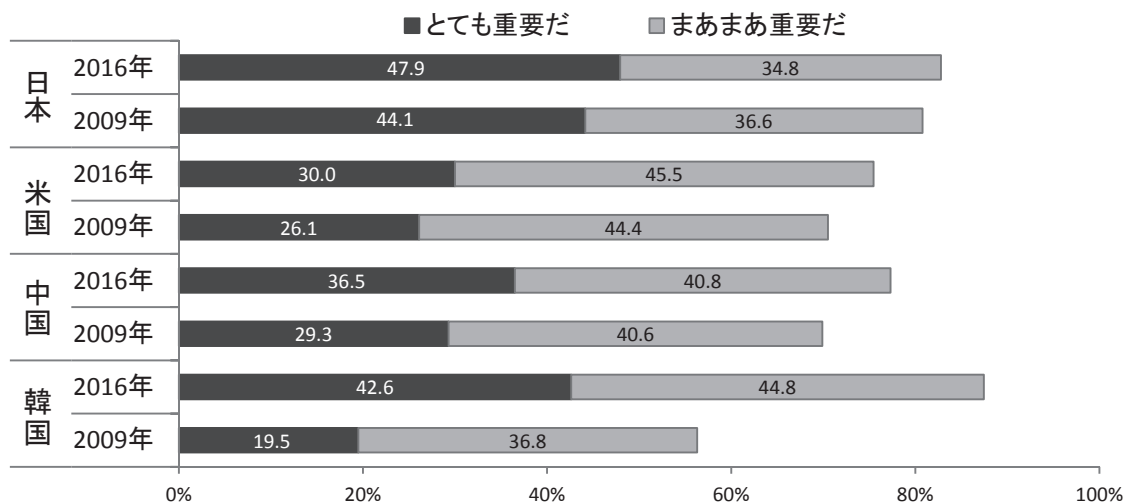


図 8-36 積極的に部活動に参加すること(2009年:部活動に熱中すること)

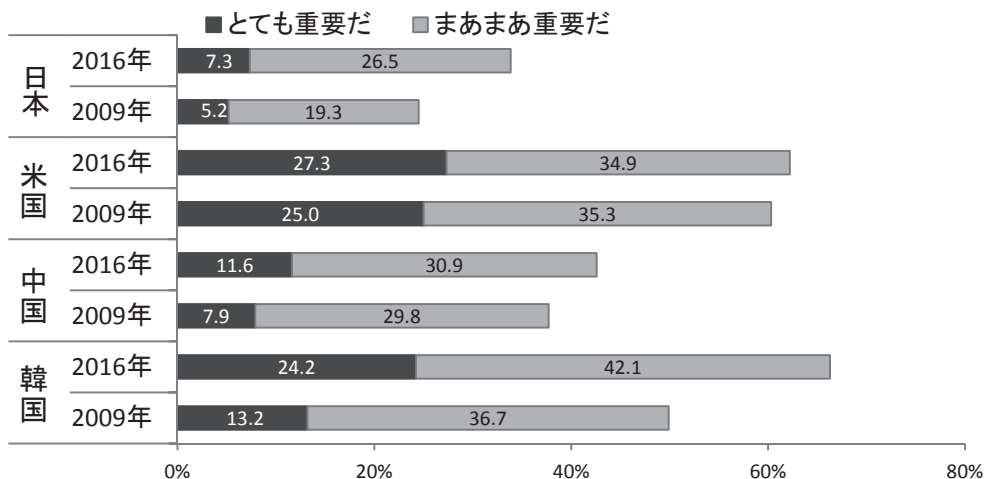


図 8-37 クラスのリーダーになること

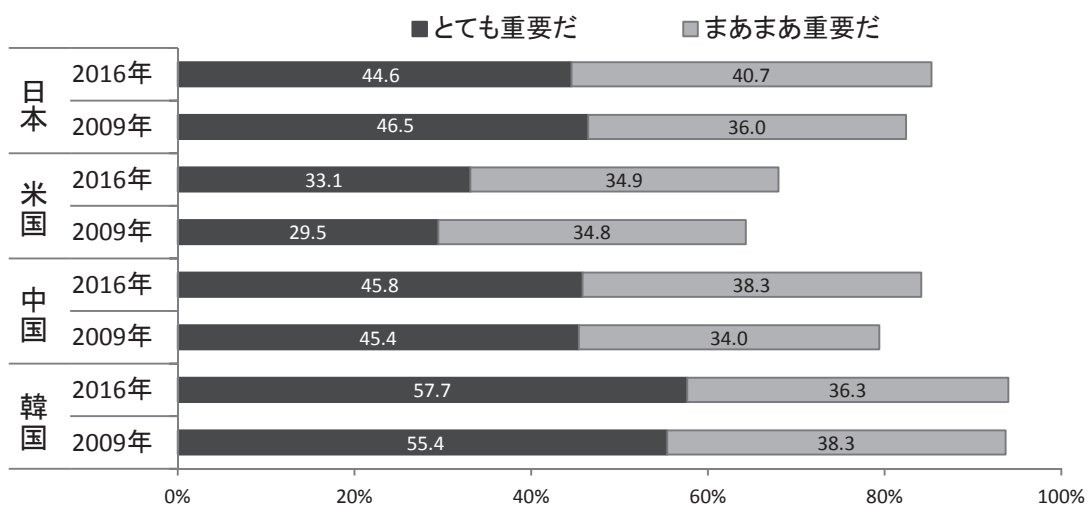


図 8-38 親友をつくること

10) 人生目標

日本の高校生は「社会のために役立つ生き方をすること」の割合が年々高くなり、「円満な家庭を築くこと」が低くなっている（図8-39～図8-44）。

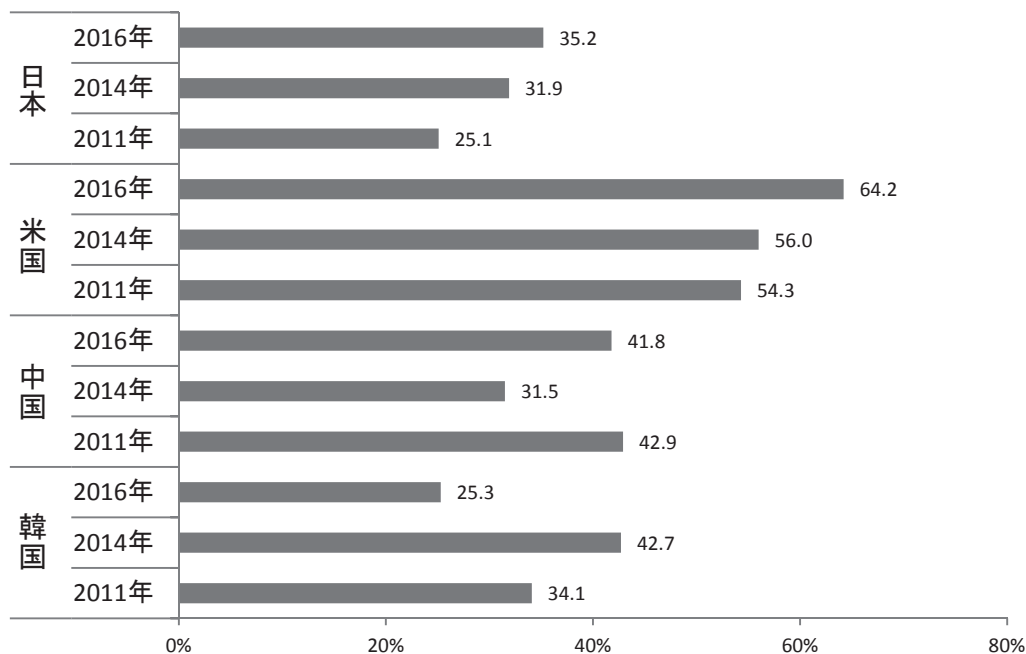


図8-39 社会のために役立つ生き方をすること(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

* 2011年:「高校生の生活意識と留学に関する調査」(財団法人日本青少年研究所)

2014年:「高校生の生活と意識に関する調査」(国立青少年教育振興機構)、以下同様。

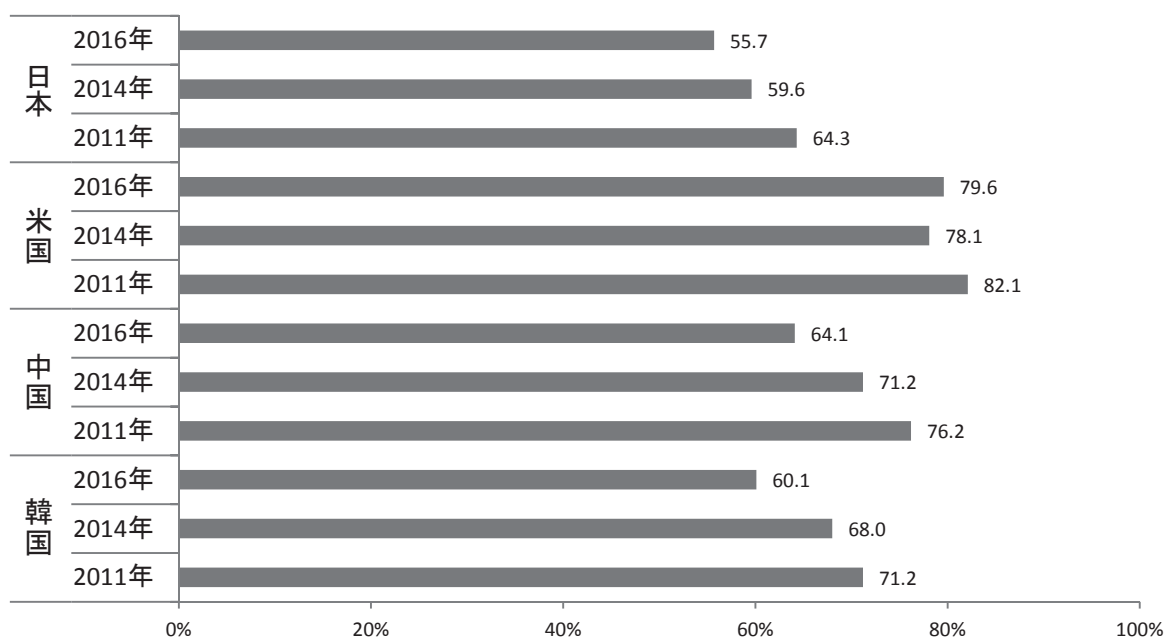


図8-40 円満な家庭を築くこと(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

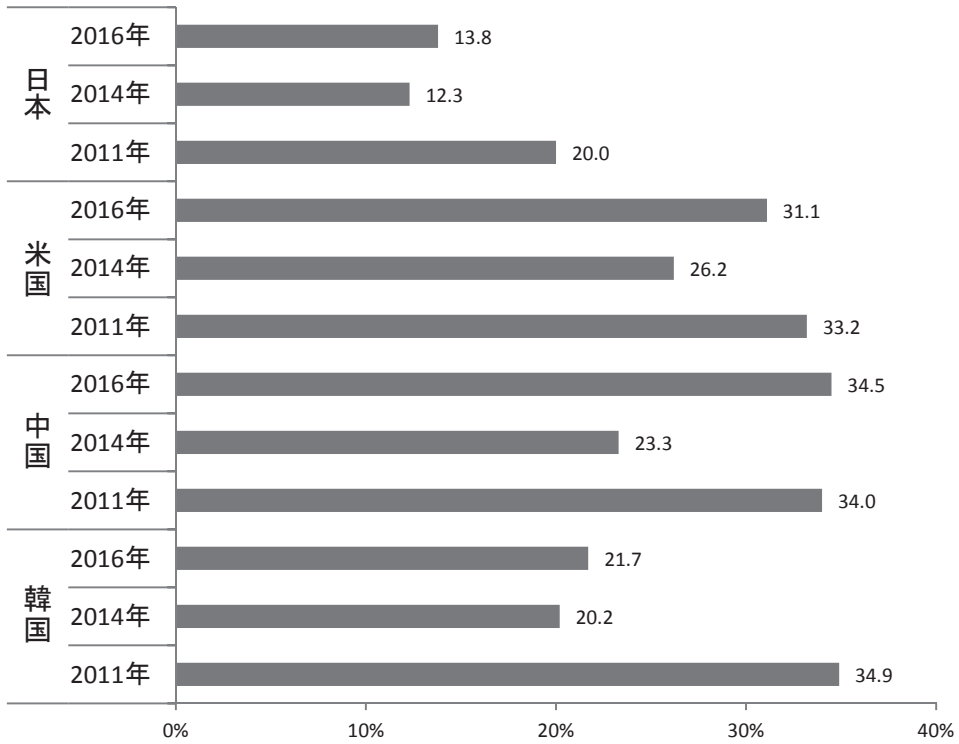


図 8-41 高い社会的地位につくこと(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

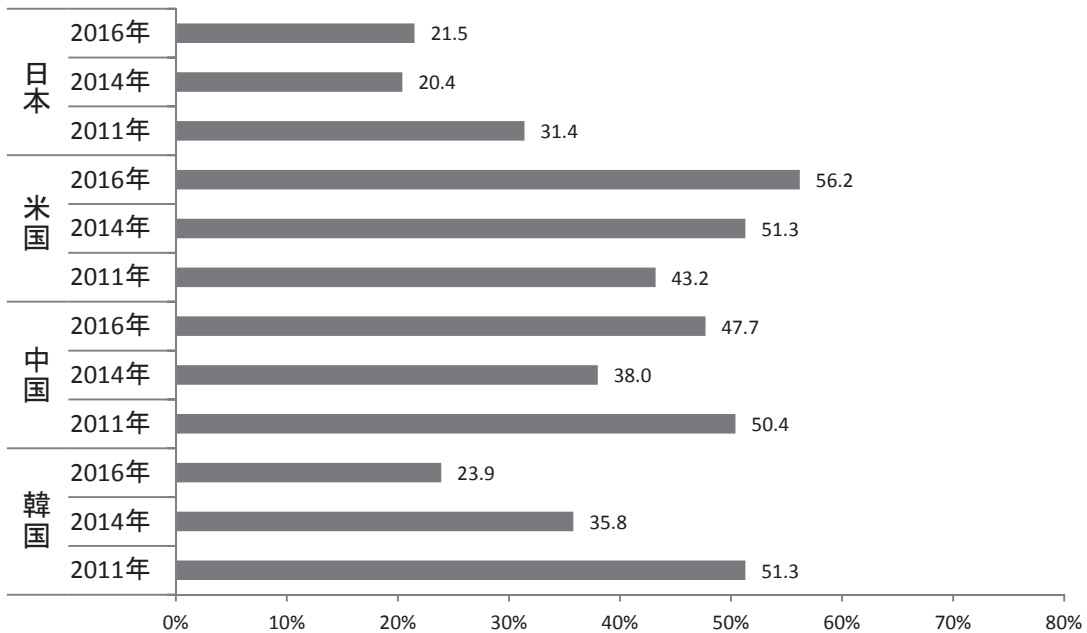


図 8-42 お金持ちになること(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

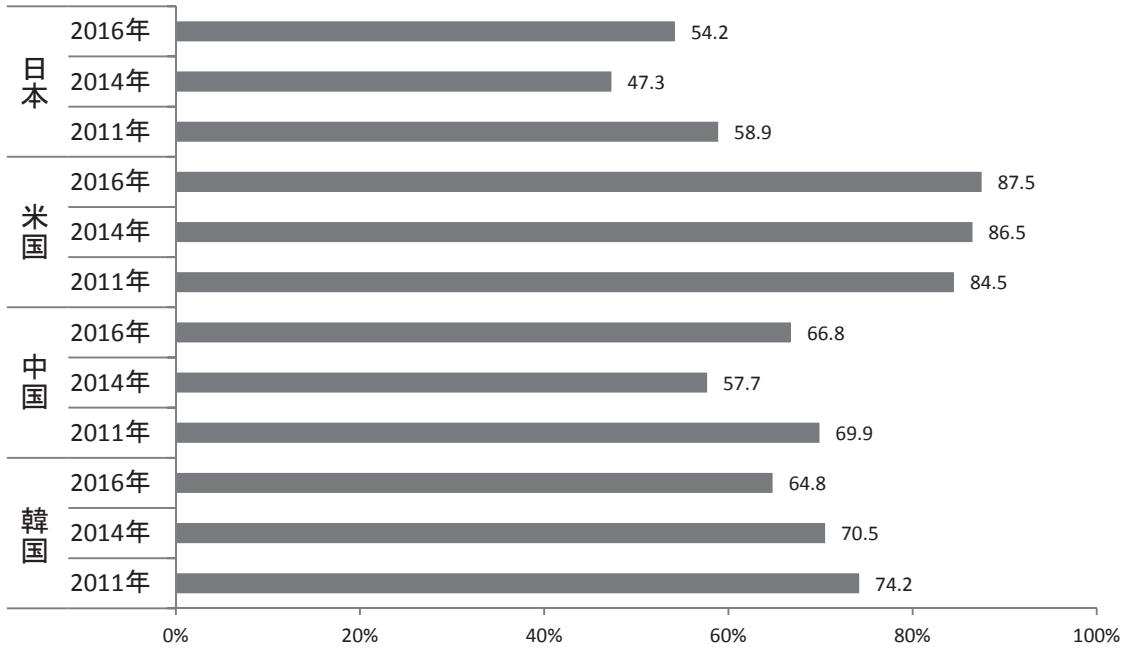


図 8-43 自分の趣味を生かす暮らしをすること(「とてもそう思う」と回答した者の割合)

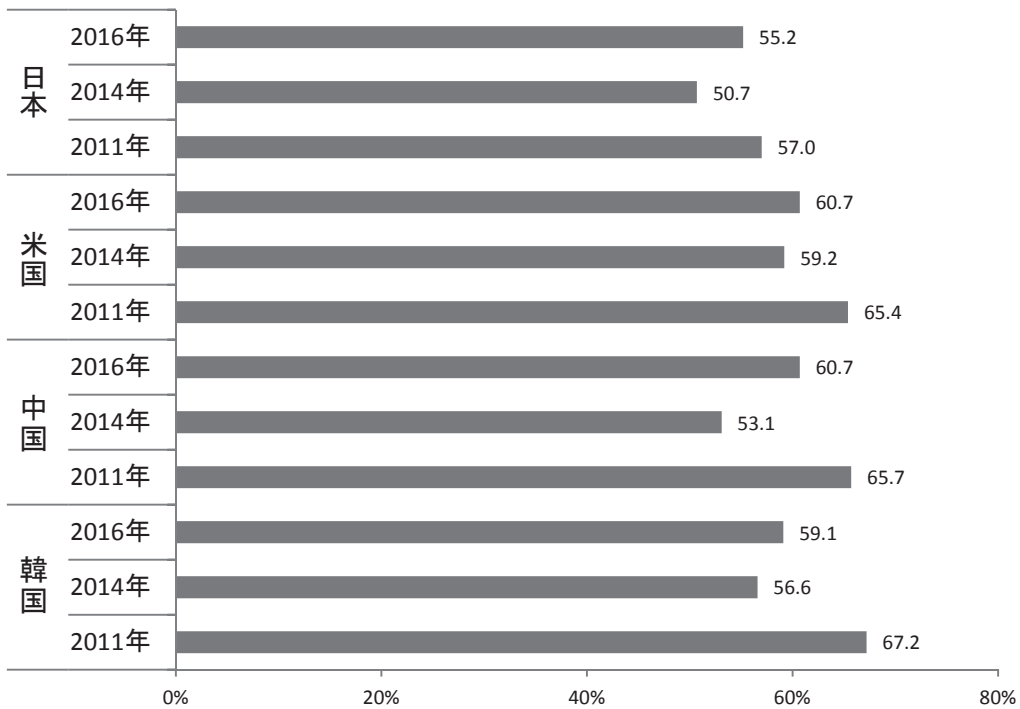


図 8-44 のんびりと気楽に暮らすこと(「とてもそう思う」と回答した者の割合)